

からむし織体験生制度についてよくあるご質問

Q 1. アルバイトはありますか（できます）か？

村内でできるアルバイトは、ほぼありません。例年、公民館の日直業務を体験生などがやっていますが、決して生活費に充てられるほど大きな収入にはなりません。また通常、月～金曜日は体験がありますので、夏季休暇などを除きアルバイトのできる日は土日と限られてしまいます。

ですので、みなさんそれなりの貯金をして来村されます。

また、失業保険の受給については、その旨ご相談下さい。ハローワーク会津若松が管轄です。

Q 2. 本当に織りや農作業が未経験でも大丈夫ですか？

大丈夫です。これまでに合格された方の中にも、全く経験のない方が多くいます。各工程で指導員が丁寧に織りや農作業について、指導して下さいます。

Q 3. 「家族持ち」、「男性」ですが、住居はどうなりますか？

原則、合宿所で共同生活ですが、男性の彦星は別途住宅を用意します。家賃は村で負担しますが、光熱水費は自己負担となりますのでご注意ください。

Q 4. 村内で食材の調達はできますか？

村内には、何店舗か生鮮食料品を扱っているお店がありますので、調達は可能です。生協などの共同購入を利用していた例もあります。大手チェーンのスーパーなどは隣町まで行かないとありません。

また、体験活動の中で野菜の栽培・収穫などもあります。

Q 5. 自動車・バイクを所有しています。持って行くことは可能でしょうか？

自動車・バイクの所有については、問題ありません。ただし、屋根付きの駐車場はなく青空駐車となります。維持にかかる費用についてはご自身でご負担ください。また、本村は特別豪雪地帯に指定されている地域です。冬期間は、スタッドレスタイヤなども必要となります。

Q 6. 極度の寒がりです。冬期間部屋に暖房器具はありますか？

各部屋に、あらかじめ備え付けられた暖房器具はありません。共同スペース用のストーブが数台あるだけですので、各部屋にはご自身でご用意をお願いします。

Q 7. ペットを飼うことはできますか？

合宿所は今後も様々な方が利用する施設です。騒音や臭気等で迷惑をかける場合もございますので、飼うことはできません。

Q 8. インターネットは利用できますか？

合宿所の wi-fi が利用できます。

Q 9. 山間部ですが、携帯電話は通じますか？

NTT ドコモ、au、softbank とも中心部で、ご利用いただけます。ただ、地区によっては、圏外の事業者もございます。合宿所と体験施設では、NTT ドコモ、au、softbank の利用が可能です。

Q 10. 通勤・外出時の交通手段はどのようなものがありますか？

合宿所から体験施設までのおよそ 1km の道のりは、こちらでご用意した自転車で通っていただきます。自動車やバイク、自転車を持ち込みされる場合はこの限りではありません。村の主要交通機関は、1 日 3 往復の会津バスと昭和村南会津町生活バス(冬期運休)になります。会津若松市内にでかける場合は、これらのバスで隣町まで出て電車を乗り継ぐ形となります。

Q 11. マスコミの取材などはどの程度あるのでしょうか？

年によってバラツキはありますが、平均すると 2 ヶ月に一度程度とお考え下さい。全国放送からローカル放送、ラジオや雑誌など幅広く取材の依頼がございます。基本的によほど不審な媒体でない限り役場では取材を受諾しますので、ご協力お願いいたします。また、村のイベント(からむし織の里フェア)では、着物ショーなど写真を撮られる機会も多いですので、ご承知おきください。村の PR 活動もみなさんの体験活動の一部となります。

Q 12. 村内行事には必ず参加しなければなりませんか？

原則として必ず参加していただきます。やむを得ない理由(ex. 心臓に持病があり、医者から止められているなど)をのぞき、村民運動会や球技大会や登山など必ずご参加をお願いいたします。村民や昭和村を訪れる方々との交流の中で、昭和村を深く知って頂くこともこの事業の目的となります。

Q 13. 途中で帰ることはできますか？

ご家庭の事情等やむを得ない場合はご相談ください。晴れて体験生となられた方々は、他にも体験生を希望されていた方々がいるわけですので、合格されなかった方々の分まで責任と自覚を持ち体験に臨むようにして下さい。万一、一部の技術を習得したい・知りたいだけ、必要なことを学んだら帰るというお考えの方がおりましたら、本事業ではなく、有料の短期体験等をご検討頂きますようお願い申し上げます。

Q 14. 体験生修了後はどうなるのでしょうか？

引き続き、からむしに関する研鑽を希望される方には、研修生という制度を設けています。役場と話し合い各自の課題を設定します。研修生の期間は最長で 3 年間、月に 8 万円を報償費として支給します。

Q 1 5. からむし織職人になれますか？

元々、後継者問題等が発端となりこの制度が作られました。しかしながら、これまでに職人（織子）として働いて居た方や個人で製作を続けられている方は、ほんの一握りです。

個人差はありますが、1年や2年でその技術を習得できるものではなく、幅広い分野がありますので、奥深く何十年もやられている村の方も限りがないと言い探求しつづけています。どの地域の織物産業も同じですが、それだけで食べていくことは難しく、それなりの覚悟が必要となります。

Q 1 6. 織物にとっても興味が有り、この事業に参加して深く学びたいと思っています。織の割合はどのくらいですか？

からむし織体験生事業は原料の栽培から織までを一年間で体験します。5～12月までは原料の栽培と手績みによる糸作り、各種の農村体験を行い、1月から織姫作品展までの約2ヶ月間が織の期間です。織機は二枚綜統の高機を用います。課題は半幅帯で、ほかにも作品を織ることが出来ます。織だけをしたい、難しい技法で織りたいという方は、ほかの織物教室などをお勧めしています。